

予 算 要 求 資 料

令和6年度当初予算

支出科目 款：教育費 項：特別支援教育費 目：特別支援教育振興費

事業名 発達障がい総合支援推進事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

教育委員会 特別支援教育課 発達障がい教育係 電話番号：058-272-1111(内8684)

E-mail：c17783@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 388 千円 (前年度予算額：727 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	727	0	0	0	0	0	0	0	727
要求額	388	0	0	0	0	0	0	0	388
決定額									

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨（現状と課題）

- ・国として「高等学校における通級による指導」について拡充傾向であり岐阜県も早期に全県で巡回型を整備・実施するため「高校通級体制強化事業」を令和4年度より開始した。
- ・「発達障がい支援スーパーバイザー」の派遣は、「高校通級体制強化事業」に移行したが、引き続き、高等学校で該当生徒を支援できる教員や特別支援教育支援員の育成のための研修が必要である。

(2) 事業内容

- ・高等学校における通級による指導担当者会議
自校型、他校型実施校に配置された特別支援学校籍教員のほか、高校籍教員も各校1名参加し、高校籍教員で指導ができる体制を推進する。
- ・特別支援教育支援員研修会
特別支援教育支援員に対し、外部講師の講演やグループ討議で資質向上を図る。

(3) 県負担・補助率の考え方

県 10/10

(4) 類似事業の有無

高校通級体制強化事業

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	23	特別支援教育支援員研修会講師
旅費	233	担当者会議旅費、特別支援教育支援員研修会旅費
消耗品費	132	用紙、コピー代
合計	388	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

- ・新子どもかがやきプラン（平成29年3月策定）
- ・第4次岐阜県教育ビジョン（令和6年3月策定）

(2) 国・他県の状況

平成30年度から通級による指導の制度化

- ・高等学校における通級による指導の制度化及び充実方策について（文部科学省調査研究協力者会議報告 平成28年3月）
- ・学校教育法施行規則改正（平成28年12月）
- ・高等学校学習指導要領改訂（平成29年3月）

(3) 後年度の財政負担

- ・高校通級体制強化事業費に順次移行する。

(4) 事業主体及びその妥当性

- ・県立高校で実施する授業であり、県で実施する。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

「高校学校における通級による指導」は、すでに自校型・他校型を開始し、令和5年度から岐阜・美濃地域、令和6年度から可茂地域で実施するとともに、他地域での巡回型の準備を進める。早期に全県的に発達障がいのある生徒一人一人のニーズに応じた、よりきめ細かい教育を提供できる体制を整える。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R4年度 実績	R5年度 目標	R6年度 目標	終期目標 (R)	達成率
①						
②						

○指標を設定することができない場合の理由

学校・生徒個人のニーズに応じて通級による指導の受講を検討するため、指標の設定は適切でない。

（これまでの取組内容と成果）

令和 2 年度	高等学校における通級による指導について、すでに華陽F（自校型・他校型）、不破（自校型）、東濃（自校型）で実施。東濃F（自校型）、飛騨高山（自校型・他校型）で翌年度の開講を目指し、準備。これらの学校に発達障がい支援スーパーバイザーを派遣。
	指標① 目標： _____ 実績： _____ 達成率： _____ %
令和 3 年度	東濃F（自校型）、飛騨高山（自校型・他校型）を開講、山県（自校型）で翌年度の開講を目指し、準備、これらの学校に発達障がい支援スーパーバイザーを派遣。
	指標① 目標： _____ 実績： _____ 達成率： _____ %
令和 4 年度	東濃F（自校型）、飛騨高山（自校型・他校型）、山県（自校型）に発達障がい支援スーパーバイザーを派遣。「高校通級体制強化事業」にて巡回型の準備を開始、拠点校の岐阜北高校、関高校にも、発達障がい支援スーパーバイザーを派遣。
	指標① 目標： _____ 実績： _____ 達成率： _____ %

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<p>・ 事業の必要性 (社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) <small>3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない</small></p>	
(評価) 3	<p>・ 発達障がい (疑い含む) 生徒は県内、全国ともに増えており、切れ目ない支援を行うための新たな学びの場を整備する必要がある。</p>
<p>・ 事業の有効性 (指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) <small>3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない</small></p>	
(評価) 3	<p>・ 受講希望者は増加しており、受講者も講座内容に満足している。中学校段階から高等学校でも通級による指導を受講できることが認知されるようになり、進路選択の際に考慮する生徒もいる。</p>
<p>・ 事業の効率性 (事業の実施方法の効率化は図られているか) <small>2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている</small></p>	
(評価) 1	<p>・ 巡回型を全県で実施するには、一度には難しく、数年を要する。</p>

(今後の課題)

<p>・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 「高等学校における通級による指導」のニーズは高く、早急に自校型・他校型・巡回型の通級による指導の体制を充実させる必要がある。また、指導できる教員の育成が必要である。</p>
--

(次年度の方向性)

<p>・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 「高校通級体制強化事業」と統合し、全県立高校において「高等学校における通級による指導」が可能な体制整備および指導者の育成を行う。</p>

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

<p>組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課</p>	【〇〇課】
<p>組み合わせて実施する理由 や期待する効果 など</p>	